

沼津市内遺跡発掘調査報告書 5

令和2年度

本発掘調査

日吉廃寺跡

史跡内内容確認調査

興国寺城跡

試掘・確認調査

石田古墳群 日吉廃寺跡 大崩遺跡・柳沢古墳群 入方遺跡 三芳町遺跡

山王台遺跡 尾崎遺跡・後藤屋敷跡 東畠毛遺跡・松長古墳群 他

2023

沼津市教育委員会

沼津市内遺跡発掘調査報告書 5

令和2年度

本発掘調査

日吉廃寺跡

史跡内内容確認調査

興国寺城跡

試掘・確認調査

石田古墳群 日吉廃寺跡 大崩遺跡・柳沢古墳群 入方遺跡 三芳町遺跡

山王台遺跡 尾崎遺跡・後藤屋敷跡 東畠毛遺跡・松長古墳群 他

2023

沼津市教育委員会

例　言

- 本書は、沼津市が令和2年度に国庫補助金等を受け市内遺跡発掘調査等事業として実施した本発掘調査及び試掘・確認調査の報告書である。
調査箇所名については、調査当時の埋蔵文化財包蔵地範囲に準拠して呼称している。
- 令和2年度の本発掘調査及び試掘・確認調査は、沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当し、文化庁補助金（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）、静岡県文化財保存費補助金を受け実施した。
- 本書に関わる資料整理は、令和4年度の文化庁補助金（国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金）、静岡県文化財保存費補助金を受け実施した。
- 事業関係者は以下のとおりである。

令和2年度

事業主体者	沼津市教育委員会	教　育　長	奥村 篤
	沼津市教育委員会事務局	教　育　次　長	芹澤一男
事業担当者	文化振興課	課　　長	森 刚彦
		課　長　補　佐	鶴田晴徳・杉山好永
		文化財調査係長	小崎 晋
調査担当者	日吉廐寺跡	文化財調査係長	小崎 晋
		学　芸　員	谷口哲也
	興国寺城跡	主任 学芸員	木村 聰
	石田古墳群	会計年度任用職員	前嶋秀張
	大席遺跡・柳沢古墳群	学　芸　員	谷口哲也
		会計年度任用職員	前嶋秀張
	入方遺跡	学　芸　員	谷口哲也
	三芳町遺跡	学　芸　員	谷口哲也
	山王台遺跡	会計年度任用職員	前嶋秀張
	尾崎遺跡・後藤屋敷跡	学　芸　員	谷口哲也
	東畑毛遺跡・松長古墳群	学　芸　員	谷口哲也
		会計年度任用職員	前嶋秀張
	小瀬訪地内	文化財調査係長	小崎 晋
		学　芸　員	谷口哲也
	大泉寺畠遺跡・山神上遺跡	学　芸　員	谷口哲也
		会計年度任用職員	前嶋秀張
	足高字尾上地内	学　芸　員	谷口哲也
	原新田地内	学　芸　員	小林晃太郎
	御幸町地内	学　芸　員	谷口哲也

令和4年度

事業主体者 沼津市教育委員会

教 育 長 奥村 篤

沼津市教育委員会事務局

教 育 次 長 山本貴史

事業担当者 文化振興課

課 長 林 敬博

課 長 補 佐 鶴田晴徳・齋藤大輔

文化財調査係長 小崎 晋

学 芸 員 小林晃太郎

会計年度任用職員 鈴木史子

5 資料整理の実務は、沼津市文化財センターで実施し、本書の原稿執筆・編集は小林・鈴木が担当した。

6 本書に関わる発掘調査の記録類及び出土品は、沼津市教育委員会事務局文化振興課（沼津市文化財センター 〒 410-0106 沼津市志下 530）で保管している。

凡 例

1 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は、東京湾の平均海面を基準とした海拔高である。

2 実測図の縮尺は各図に表示するとともに、出土遺物の実測図については土器 1/3 または 2/5、瓦 1/3 とした。

3 土層・土器胎土の色調・記号は、『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所に基づいて記載し、計測は上色計 (SCR-1 第一合成株式会社製) を用いた。

4 遺構の略号は以下のとおりである。

TP : テストピット（試掘坑） TR : トレンチ（試掘溝） SD : 溝状遺構 PT : 小穴

5 遺物観察表における推定値・復元値・残存値には（ ）を付して表記した。

6 本報告書で用いる出土品についての記述は、以下の文献を参考とした。

加納俊介・石黒立人編 2002 『弥生土器の様式と編年－東海編－』株式会社木耳社

財団法人 浜松市文化協会 1998 『梶子北遺跡 遺物編（本文）』

沼津市教育委員会 2016 『中原遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第 113 集

2017 『御幸町遺跡第 4 次発掘調査報告書』

沼津市文化財調査報告書 第 117 集

2019 『沼津市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 1』

沼津市文化財調査報告書 第 118 集

2019 『史跡興国寺城跡調査報告書－発掘調査報告書編－』

沼津市文化財調査報告書 第 119 集

三島市教育委員会 1989 『安久遺跡』土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

目 次

例言

凡例

第Ⅰ章 調査概要

　　第1節 調査の概要 1

第Ⅱ章 令和2年度の調査

　　第1節 本発掘調査

　　（1）日吉庵寺跡 2

　　第2節 史跡内容確認調査

　　（1）興国寺城跡 6

　　第3節 試掘・確認調査

　　（1）石田古墳群 8

　　（2）日吉庵寺跡 9

　　（3）大麻遺跡・柳沢古墳群 12

　　（4）入方遺跡 13

　　（5）三芳町遺跡 15

　　（6）山王台遺跡 16

　　（7）尾崎遺跡・後藤屋敷跡 17

　　（8）東畠毛遺跡・松長古墳群 19

　　（9）小瀧訪地内 21

　　（10）大泉寺遺跡・山神上遺跡 22

　　（11）足高字尾上地内 24

　　（12）原新田地内 25

　　（13）御幸町地内 26

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 調査箇所位置図 1

第2図 日吉庵寺跡調査箇所位置図 2

第3図 日吉庵寺跡調査区配置図 2

第4図 日吉庵寺跡調査区平面図・断面図 3

第5図 日吉庵寺跡（本発掘調査）出土遺物実測図（1） 3

第6図 日吉庵寺跡（本発掘調査）出土遺物実測図（2） 4

第7図 日吉庵寺跡（本発掘調査）出土遺物実測図（3） 5

第8図 興国寺城跡調査箇所位置図 6

第9図 興国寺城跡試掘溝配置図 6

第10図 興国寺城跡第1地点平面図・断面図・立面図 7

第11図 興国寺城跡第2地点平面図 7

第12図 石田古墳群調査箇所位置図 8

第 13 図	石田古墳群試掘坑配置図・柱状図	8
第 14 図	日吉廐寺跡調査箇所位置図	9
第 15 図	日吉廐寺跡試掘溝配置図	9
第 16 図	日吉廐寺跡試掘溝平面図・断面図	10
第 17 図	日吉廐寺跡（確認調査）出土遺物実測図（1）	10
第 18 図	日吉廐寺跡（確認調査）出土遺物実測図（2）	11
第 19 図	大廓遺跡・柳沢古墳群調査箇所位置図	12
第 20 図	大廓遺跡・柳沢古墳群試掘坑配置図・柱状図	12
第 21 図	入方遺跡調査箇所位置図	13
第 22 図	入方遺跡試掘坑配置図・柱状図	13
第 23 図	入方遺跡出土遺物実測図	14
第 24 図	三芳町遺跡調査箇所位置図	15
第 25 図	三芳町遺跡試掘坑配置図・柱状図	15
第 26 図	山王台遺跡調査箇所位置図	16
第 27 図	山王台遺跡試掘坑配置図・柱状図	16
第 28 図	尾崎遺跡・後藤屋敷跡調査箇所位置図	17
第 29 図	尾崎遺跡・後藤屋敷跡試掘坑配置図・柱状図	17
第 30 図	尾崎遺跡・後藤屋敷跡出土遺物実測図	18
第 31 図	東烟毛遺跡・松長古墳群その1調査箇所位置図	19
第 32 図	東烟毛遺跡・松長古墳群その1試掘坑配置図・柱状図	19
第 33 図	東烟毛遺跡・松長古墳群その2調査箇所位置図	20
第 34 図	東烟毛遺跡・松長古墳群その2試掘坑配置図・柱状図	20
第 35 図	小瀬訪地内調査箇所位置図	21
第 36 図	小瀬訪地内試掘坑配置図・柱状図	21
第 37 図	大泉寺煙遺跡・山神上遺跡調査箇所位置図	22
第 38 図	大泉寺煙遺跡・山神上遺跡標準土層及び試掘坑5平面図・断面図	22
第 39 図	大泉寺煙遺跡・山神上遺跡試掘坑配置図	23
第 40 図	足高字尾上地内調査箇所位置図	24
第 41 図	足高字尾上地内試掘坑配置図・柱状図	24
第 42 図	原新田地内調査箇所位置図	25
第 43 図	原新田地内試掘溝・試掘坑配置図・柱状図	25
第 44 図	御幸町地内調査箇所位置図	26
第 45 図	御幸町地内試掘溝平面図・断面図	26

挿表目次

第 1 表	調査箇所一覧表	1
第 2 表	日吉廐寺跡（本発掘調査）出土遺物観察表	5
第 3 表	日吉廐寺跡（確認調査）出土遺物観察表	11
第 4 表	入方遺跡出土遺物観察表	14
第 5 表	尾崎遺跡・後藤屋敷跡出土遺物観察表	18

写真図版目次

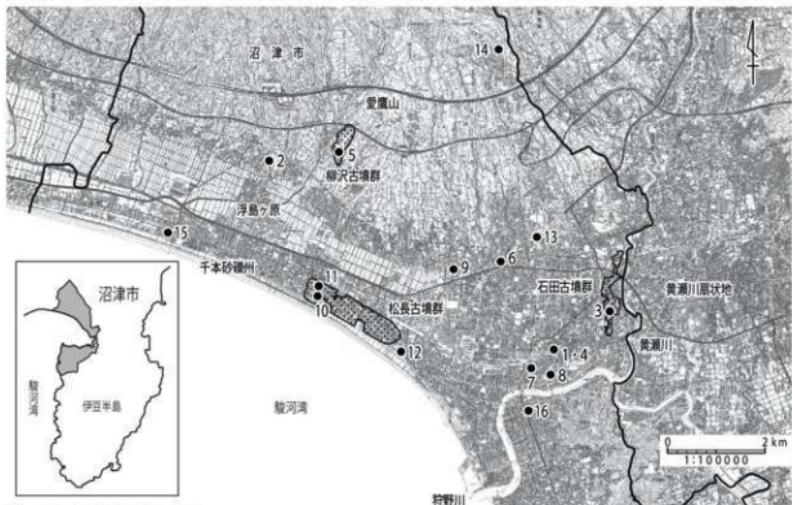
- PL. 1 日吉廃寺跡 調査箇所（北より）
日吉廃寺跡 本発掘調査作業状況
日吉廃寺跡 本発掘調査調査区土層断面（東より）
- PL. 2 日吉廃寺跡 本発掘調査遺物出土状況
日吉廃寺跡 本発掘調査 出土遺物
- PL. 3 興国寺城跡 第1地点調査区全景
興国寺城跡 第1地点 試掘溝1石垣検出状況（南東より）
興国寺城跡 第2地点調査区全景
- PL. 4 石田古墳群 調査箇所（北西より）
石田古墳群 試掘坑重機掘削
石田古墳群 試掘坑土層断面（南より）
- PL. 5 日吉廃寺跡 確認調査 試掘溝完掘（北より）
日吉廃寺跡 確認調査 試掘溝完掘（南東より）
日吉廃寺跡 確認調査 試掘溝土層断面（南東より）
- PL. 6 日吉廃寺跡 確認調査 遺物出土状況
日吉廃寺跡 確認調査 出土遺物
- PL. 7 大廓遺跡・柳沢古墳群 調査箇所（南より）
大廓遺跡・柳沢古墳群 試掘坑1重機掘削
大廓遺跡・柳沢古墳群 試掘坑1土層断面（南より）
- PL. 8 入方遺跡 調査箇所（西より）
入方遺跡 試掘坑1重機掘削
入方遺跡 試掘坑1土層断面（西より）
- PL. 9 入方遺跡 試掘坑2土層断面（西より）
入方遺跡 試掘坑1遺物出土状況
入方遺跡 出土遺物
- PL. 10 三芳町遺跡 試掘坑重機掘削
三芳町遺跡 試掘坑土層断面（南より）
三芳町遺跡 出土遺物
- PL. 11 山王台遺跡 調査箇所（西より）
山王台遺跡 試掘坑1重機掘削
山王台遺跡 試掘坑1土層断面（南西より）
- PL. 12 尾崎遺跡・後藤屋敷跡 試掘坑1重機掘削
尾崎遺跡・後藤屋敷跡 試掘坑1土層断面（南西より）
尾崎遺跡・後藤屋敷跡 出土遺物
- PL. 13 東畠毛遺跡・松長古墳群その1 調査箇所（南西より）
東畠毛遺跡・松長古墳群その1 試掘坑重機掘削
東畠毛遺跡・松長古墳群その1 試掘坑土層断面（南西より）

- PL14 東烟毛遺跡・松長古墳群その2 調査箇所（東より）
東烟毛遺跡・松長古墳群その2 試掘坑重機掘削
東烟毛遺跡・松長古墳群その2 試掘坑土層断面（南西より）
- PL15 小瀬訪地内 調査箇所（南西より）
小瀬訪地内 試掘坑2重機掘削
小瀬訪地内 試掘坑2土層断面（西より）
- PL16 大泉寺煙遺跡・山神上遺跡 試掘坑1重機掘削
大泉寺煙遺跡・山神上遺跡 試掘坑4土層断面（東より）
大泉寺煙遺跡・山神上遺跡 試掘坑5土層断面（東より）
- PL17 足高字尾上地内 調査箇所（北東より）
足高字尾上地内 試掘坑3重機掘削
足高字尾上地内 試掘坑3土層断面（南より）
- PL18 原新田地内 調査箇所（南東より）
原新田地内 試掘溝重機掘削
原新田地内 試掘溝土層断面（南西より）
- PL19 御幸町地内 調査箇所（北より）
御幸町地内 試掘溝重機掘削
御幸町地内 試掘溝完掘（東より）

第1章 調査概要

第1節 調査の概要

令和2年度は、補助事業として個人住宅の新築工事に係る本発掘調査、史跡整備に係る史跡内容確認調査、大規模開発や個人住宅建設等に係る試掘・確認調査について合計16件を実施した（第1図・第1表）。対象となった箇所は日吉廃寺跡、興國寺城跡、石田古墳群、大廓遺跡・柳沢古墳群、入方遺跡、三芳町遺跡、山王台遺跡、尾崎遺跡・後藤屋敷跡、東畠毛遺跡・松長古墳群、及び小瀬訪地内、大泉寺遺跡・山神上遺跡、足高字尾上地内、原新田地内、御幸町地内である。



第1図 調査箇所位置図

第1表 調査箇所一覧表

番号	調査区分	調査箇所	番号	調査区分	調査箇所
1	本発掘調査	日吉廃寺跡	9	確認調査	尾崎遺跡・後藤屋敷跡
2	史跡内容確認調査	興國寺城跡	10	確認調査	東畠毛遺跡・松長古墳群
3	確認調査	石田古墳群	11		
4	確認調査	日吉廃寺跡	12	試掘調査	小瀬訪地内
5	確認調査	大廓遺跡・柳沢古墳群	13	試掘・確認調査	大泉寺遺跡・山神上遺跡
6	確認調査	入方遺跡	14	試掘調査	足高字尾上地内
7	確認調査	三芳町遺跡	15	試掘調査	原新田地内
8	確認調査	山王台遺跡	16	試掘調査	御幸町地内

第Ⅱ章 令和2年度の調査

第1節 本発掘調査

(1) 日吉庵寺跡

所在地

沼津市富士見町 1856-28 の一部外

調査面積

約 3m²

調査期間

令和2年9月17日

調査原因

個人住宅の新築工事

調査の概要

個人住宅の新築工事に先立ち、確認調査を実施した結果、埋蔵文化財が確認された。その際、浄化槽部分が本発掘調査対象となったことから、当該範囲に調査区を設定し、本発掘調査を実施した。

調査は、重機により表土を除去したのち、人力によって掘り下げた。なお、確認調査の内容については、第3節(2)に記載している。

調査の結果

地表面から -1.0mまで調査した結果、地表下 -0.3mまでは埋土となっており、埋土以下、5層の堆積土を確認した。第1層及び第2層は遺物の出土が少なく平坦に堆積し、3~5層を覆っている。第2層の下には、第3層(黒褐色粘質土)、第5層(赤褐色砂質土)が堆積し、調査区南西隅で、第4層(暗褐色砂質土)が第5層を掘り込んでいた。遺物は第3層から第5層にかけて多く出土しており、平面プランを確認することはできなかったものの、堆積状況と遺物の出土状況から、後述する確認調査時に検出した不明遺構(SX1・4)の覆土と推測される(第3節(2)参照)。

調査区からは、土器類と瓦が出土した。出土した遺物は小片が多く、そのうち実測が可能な土師器3点(1~3)、須恵器1点(4)を第5図、瓦4点(5~8)を第6図と第7図に示した。

1は甕の口縁部である。外傾して立ち上がる器形を呈し、口縁端部をわずかに肥厚させている。内外面ともにハケによる調整後、横位のナデで整えている。2・3は塊の口縁部から体部にかけての一部である。2は内湾した器形を呈する。3は脛部から内湾して立ち上がり口縁下で屈曲する器形を呈す。

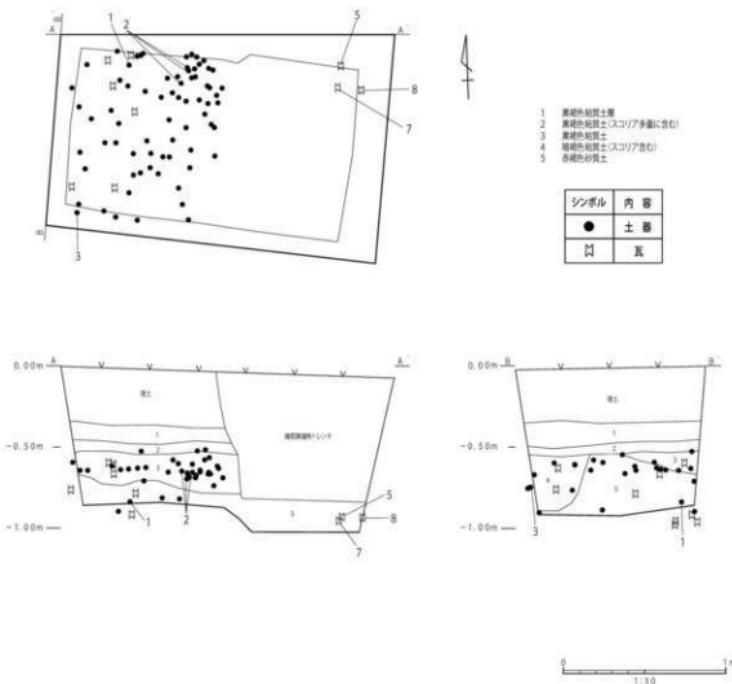
し、口縁部は直線的に立ち上がる。4は須恵器の環蓋である。蓋頂部は欠損している。5は四重弧文軒平瓦の瓦当部である。弧線は最上段と最下段がやや太く、弧線、凹線とともに幅や方向が一定しない。凸面に斜格子の叩きがわずかに認められる。6は丸瓦である。7・8は平瓦の一部で7は凸面に正格子、8は斜格子状の叩きが認められる。



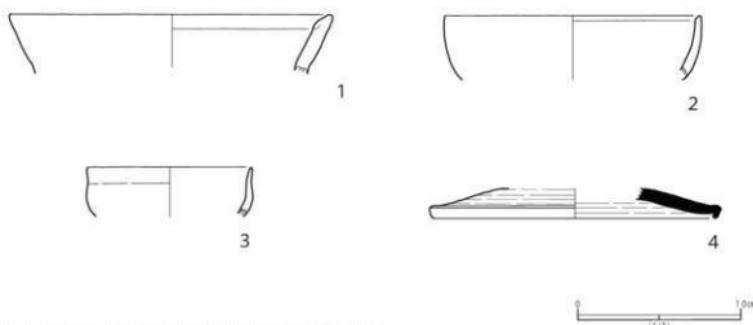
第2図 日吉庵寺跡調査箇所位置図



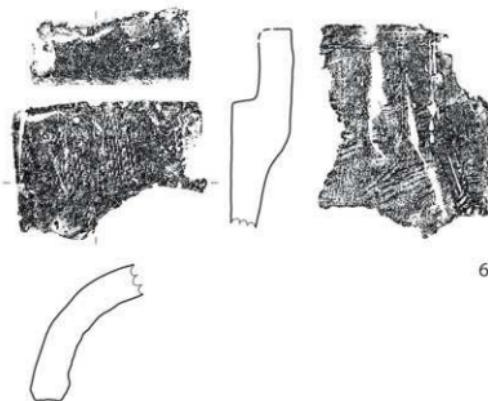
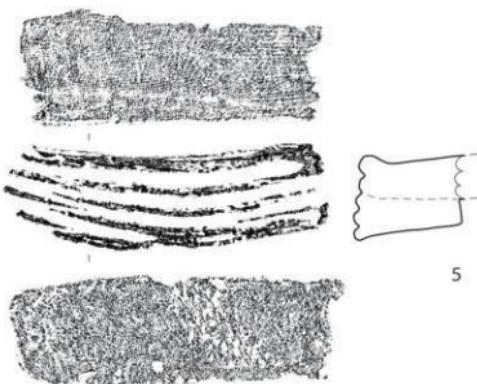
第3図 日吉庵寺跡調査区配置図



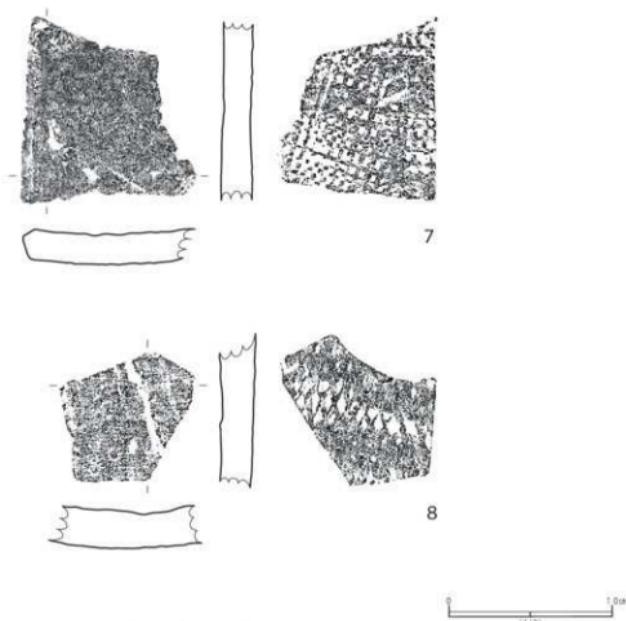
第4図 日吉庵寺跡調査区平面図・断面図



第5図 日吉庵寺跡(本発掘調査)出土遺物実測図(1)



第6図 日吉廃寺跡（本発掘調査）出土遺物実測図（2）



第7図 日吉廐寺跡（本発掘調査）出土遺物実測図（3）

第2表 日吉廐寺跡（本発掘調査）出土遺物観察表

土器

調査 番号	遺物 番号	出土 地点	種類	基盤	口径 基盤 厚さ	胎土	構成	色調	捲丹	布包の特徴	手法の特徴	備考
5図 1	24 61 57	3層	土師器	壺	(20.0cm) (3.2cm) -	φ 1mm の白色砂粒 2% 合む	良	にごり赤褐色 (5194-3)	口縁部	口縁は外側して立ち上がる 口縁部はわずかに肥厚する	外面 ハケ調整後、捲丹ナデ 内面 ハケ調整後、捲丹ナデ	70 ~ 80
5図 2	73	3層	土師器	壺	(15.8cm) (4.0cm) -	φ 1mm の黑色砂粒 3% 合む	良	赤褐色 (5194-4)	口縁部	口縁は内側して口縫下に凹曲する 口縁はほぼ直立する	外面 捲丹ナデ 内面 捲丹ナデ	70 ~ 80
5図 3	79	4層	土師器	壺	(20.0cm) (3.1cm) -	φ 1mm の黑色砂粒 3% 合む	良	褐色 (5194-6)	口縁部	内側している	外面 捲丹ナデ 内面 捲丹ナデ	70 ~ 80
5図 4	-	-	漆器	坪蓋	(17.6cm) (1.8cm) -	φ 3mm の白色砂粒 2% 合む	良	褐色 (96-0)	天井部 口縁部	つまみ部分は欠損 口縁部は内側する	左クロ彫形	IC

瓦

調査 番号	遺物 番号	出土 地点	種類	分類	幅	全長	厚さ	胎土	構成	色調	凸面調整	凹面調整	備考
6図 5	40	5層	瓦	斜平瓦	(20.1cm)	(6.8cm)	4.2cm	φ 5mm以下の白色砂粒、褐色砂粒 7% 合む	良	灰褐色 (33Y6/1)	斜格子叩き	希日	重量很大
6図 6	-	-	瓦	丸瓦	球頭瓦: (6.8cm) 球頭瓦: (7.2cm)	(12.2cm)	2.1cm	φ 5mm以下の白色砂粒 5% 合む	良好	灰白色 (33Y7/1)	調目	希日	
7図 7	45	5層	瓦	平瓦	楕 (10.5cm)	(10.7cm)	1.9cm	φ 5mm以下の白色砂粒、黑色砂粒 7% 合む	良	灰白色 (23Y7/1)	正格子叩き	希日 + ナデ	
7図 8	44	5層	瓦	平瓦	楕 (9.3cm)	(9.4cm)	2.3cm	φ 5mm以下の白色砂粒、褐色砂粒 7% 合む	良	灰褐色 (10Y7/4)	斜格子叩き	希日 + ナデ	

第2節 史跡内容確認調査

(1) 興国寺城跡

所在地

沼津市根古屋字赤池 392-1 の一部外

調査面積

226.3m²

調査期間

令和2年12月23日～令和3年3月12日

調査原因

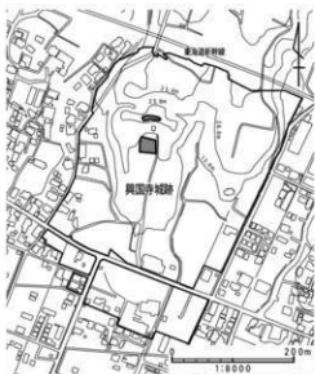
史跡整備

調査の概要

国指定史跡である興国寺城跡については、史跡整備に先立ち、本城郭の地下遺構等の詳細な分布状況等を把握し遺構復元に必要な基礎資料を得るために内容確認調査を実施した。

今回調査を行ったのは伝天守台石垣（第1地点）と平成30年度に刊行した『史跡興国寺城跡調査報告書・発掘調査 第8回 興国寺城跡調査箇所位置図 報告編』（2019）内で課題として挙げられていた本丸（第2地点）である。

第1地点である伝天守台の南面には石垣が築かれているが、南面東側については地表面に残存しているものの、南面西側については抜き取られている。このため、抜き取られていると推定される箇所にトレンチを2か所設定して地下の様子を確認した。その結果、埋没していた石垣を検出した。埋没石垣の検出は、本丸土壘の断ち割りとなることから、範囲を限定して部分的にのみ行ったため、最下層の様相

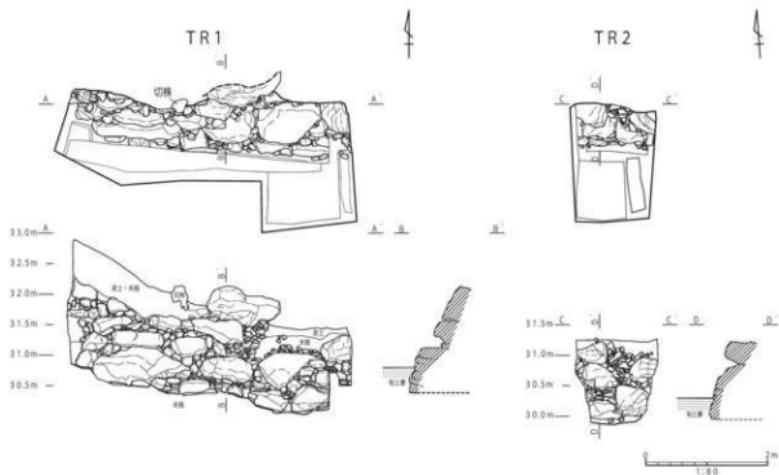


第9図 興国寺城跡試掘溝配置図

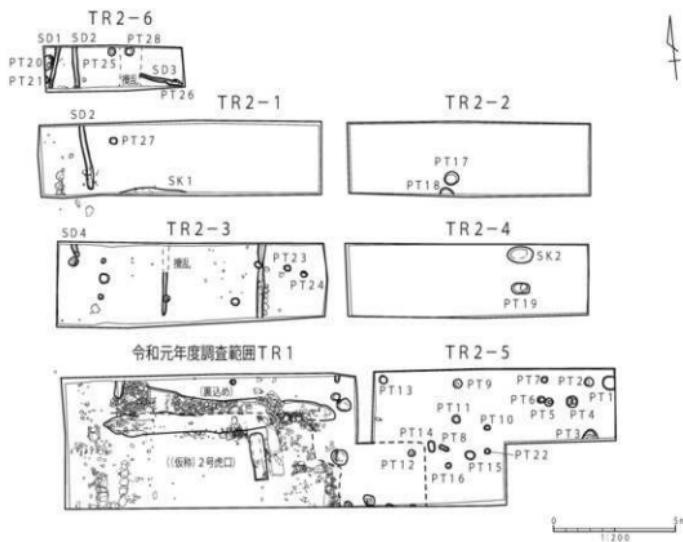
は明らかではないが、石垣は間詰石を多量に含む野面積みで、TR 1においては下層から上墨盛土の上に10～40cm大の礫を充填したのち、その上部には1mを超える巨石が標高31.0mあたりで平坦に積まれている。巨石の下半は土墨盛土によって埋め殺されており、土墨盛土最上面では巨石を押さえるための粘土層が部分的に検出された。

第2地点である本丸については、令和元年度調査において石垣に囲われた（仮称）2号虎口を検出していたため、令和2年度は（仮称）2号虎口よりも北側の調査を行った。その結果、溝状遺構（SD）4条、土坑（SK）2基、小穴（PT）28基を確認した。門などの施設は検出できなかったものの、遺構の検出状況から未検出の遺構群が本丸の北側に広がっている可能性が高まった。

本丸内の空間構造については、さらに検討を重ねる必要があることから、本書では調査図面の掲載にとどめ、詳細については今後の調査成果を踏まえ改めて報告する。



第10図 興國寺城跡第1地点平面図・断面図・立面図



第11図 興國寺城跡第2地点平面図

第3節 試掘・確認調査

(1) 石田古墳群

所在地

沼津市大岡字上ノ田 2406-4

調査面積

4 m²

調査期間

令和2年7月20日

調査原因

一戸建て住宅の新築

調査の概要

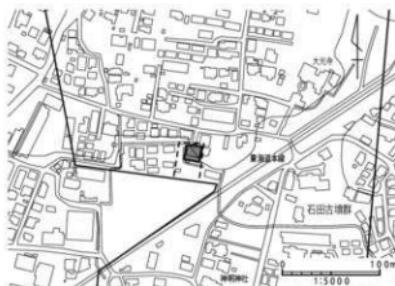
確認調査は、対象地に試掘坑(TP)を1か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

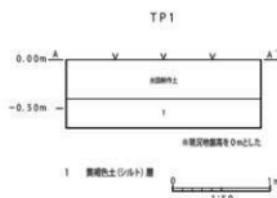
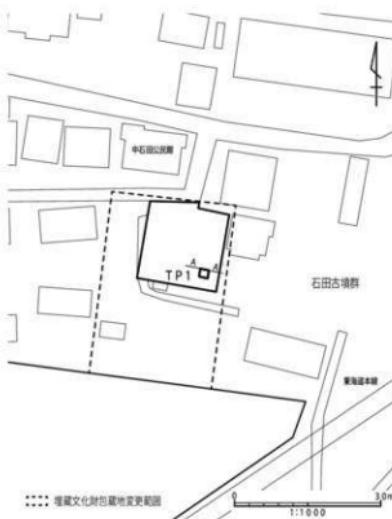
TP1の土層堆積状況は、地表から-0.4mまで水田耕作土となっており、-0.4mより以下は黄瀬川扇状地堆積物である黄褐色土が堆積していた。

遺構・遺物は確認されなかった。

今回の調査結果を踏まえ、令和2年7月22日付け沼教文第381号にて埋蔵文化財包蔵地の内容変更協議を行い、令和2年8月14日付け文財第927号にて、第13図の破線範囲は埋蔵文化財包蔵地外として変更された。



第12図 石田古墳群調査箇所位置図



第13図 石田古墳群試掘坑配置図・柱状図

(2) 日吉廃寺跡

所在地

沼津市富士見町 1856-28 の一部外

調査面積

22m²

調査期間

令和2年7月21日

調査原因

個人住宅の新築工事

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘溝（TR）を1か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

地表から約-0.6m掘り下げた結果、地山である第4層（赤褐色砂質土層）を掘り込む遺構を、4基確認した。しかし、調査範囲の大半が後世の削平を受けた状態であり、どのような遺構であるか判然としないことから、不明遺構（SX）とした。埋土直下にはスコリアを多量に含む第1層（黒褐色粘質土層）がわずかに堆積しており、土器小片が少量混じっていた。SX1は南北に設定したトレーンチの北側に位置し、平面プランの形状から円形を呈するものと推測される。立ち上がりは緩やかで約0.2mの第2層（黒褐色粘質土）が堆積する。覆土中から古代瓦が出土した。SX4は北西隅の位置し、検出面より0.4mの深さを測る。南側はSX1に切られ、全体は北西に広がるものと考えられる。SX2・3については平面プランの確認のみにとどめた。

なお、SX1・4を検出した箇所は個人住宅の浄化槽部分にあたり、本発掘調査対象範囲となったことから、令和2年9月17日に記録保存のための本発掘調査を実施した（第1節参照）。

出土した遺物については、実測可能な4点を図示した（第17・18図）。1は須恵器、2～4は瓦である。

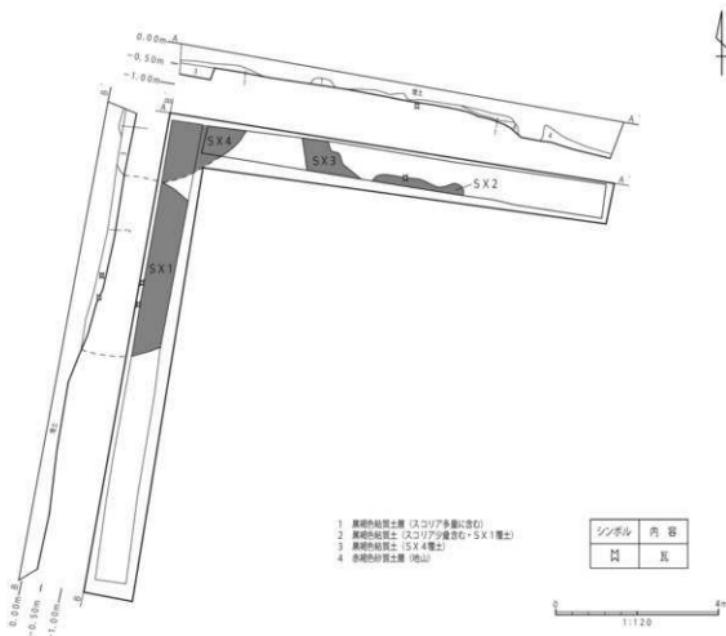
1は長頸壺の頸部で、口縁部にむかって外反する器形を呈する。外面には自然釉がわずかに認められる。2は有段式の丸瓦で玉縁は欠損している。3・4は平瓦の一部で、凸面に斜格子状の叩きが認められる。



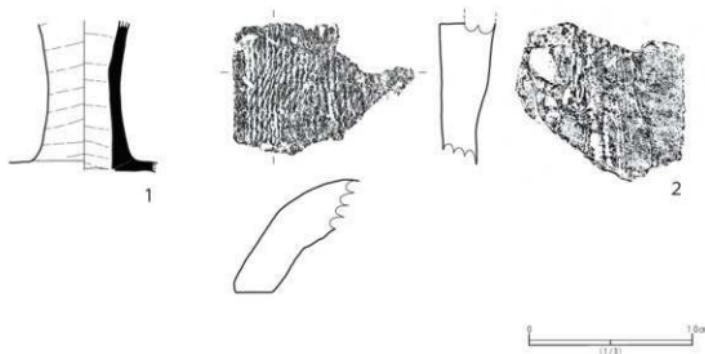
第14図 日吉廃寺跡調査箇所位置図



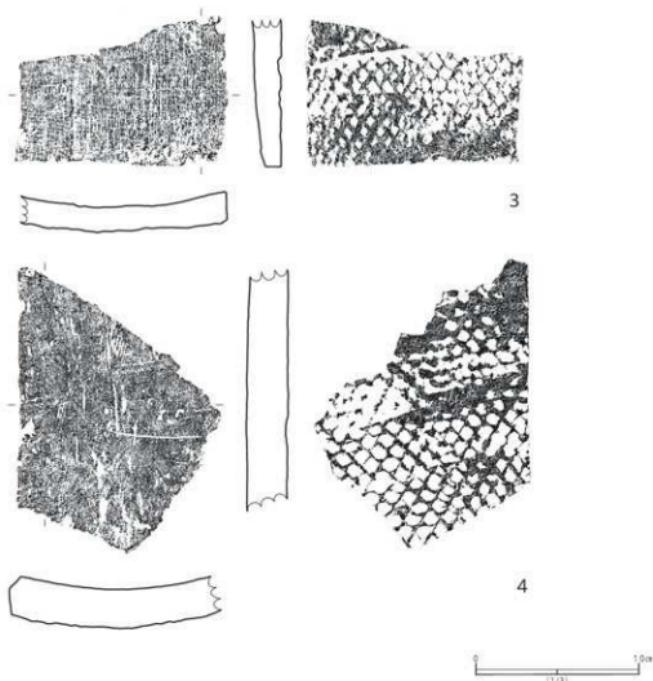
第15図 日吉廃寺跡試掘溝配置図



第16図 日吉廃寺跡試掘溝平面図・断面図



第17図 日吉廃寺跡（確認調査）出土遺物実測図（1）



第18図 日吉庵寺跡（確認調査）出土遺物実測図（2）

第3表 日吉庵寺跡（確認調査）出土遺物観察表
土器

図版 番号	遺物 番号	出土 地点	種類	分類	幅	全長	厚さ	粘土	焼成	色調	形態の特徴	手法の特徴	備考
17図 1	-	-	漆器	漆器	(3.6cm) (3cm)~	φ 1mmの白色砂粒 2%含む	直	灰白色 (TSV7/2)	無	口縁部にむかって外反するが、口縁部 及び底部を欠損	外墨 回転ナシ 内墨 回転ナシ	TC後半～BC初期	

瓦

図版 番号	遺物 番号	出土 地点	種類	分類	幅	全長	厚さ	粘土	焼成	色調	凸葉調査	凹葉調査	備考
17図 2	2	2層 Sx1	瓦	丸瓦	縦(7.6cm)	18.6cm	2.6cm	φ 5mm以下の白色砂粒 2%含む	直	灰色 (TSV7/1)	網目	希目+ケズリ	
18図 3	-	-	瓦	平瓦	縦(12.3cm)	31.1cm	1.5cm	φ 5mm以下の白色砂粒。褐色砂粒 7%含む	直	暗青灰色 (TSV4/1)	斜格子叩き	希目	
18図 4	-	-	瓦	平瓦	縦(12.3cm)	31.4cm	2.4cm	φ 5mm以下の白色砂粒 7%含む	直	灰 (TSV6/1)	斜格子叩き	希目+ケズリ	

(3) 大席遺跡・柳沢古墳群

所在地

沼津市柳沢字大郭 401-5 外

調査面積

12m²

調査期間

令和2年9月2日

調査原因

離れの新築

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑(TP)を3か所設定し、重機によって掘削した。

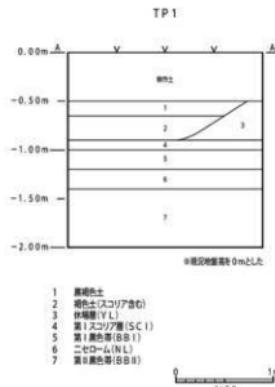
調査の結果

TP 1 の土層堆積状況は、地表から -0.5m まで耕作土、-0.5m から -0.9m まで休場層、-0.9m から -1.0m まで第Ⅰスコリア層となっており、以下 -2.0m の第Ⅱ黒色帶まで愛鷹山麓上部ローム層の標準的な堆積となっていた。

遺構・遺物については、地表下 -0.5m の第3層(休場層)上面から第4層(第Ⅰスコリア層)までを掘り込む遺構を確認した。土層の断面観察の結果、遺構の覆土は第1層(黒褐色土)と第2層(褐色土)に分層され、休場層上面を検出面とする平面プランと堀方の状況から、住居址の可能性が高いことが明らかとなった。遺物は、古墳時代前期の土師器とともに縄文時代の土器が含まれていた。TP 2・3についても、TP 1 同様の土層堆積を確認している。このことから、当該地には古墳時代に帰属する集落跡が存在するとともに、縄文時代の遺跡も存在していたことが改めて確認された。



第19図 大席遺跡・柳沢古墳群調査箇所位置図



第20図 大席遺跡・柳沢古墳群試掘坑配置図・柱状図

(4) 入方遺跡

所在地

沼津市東沢田 256-1 外

調査面積

8 m²

調査期間

令和2年9月18日

調査原因

一戸建住宅の新築

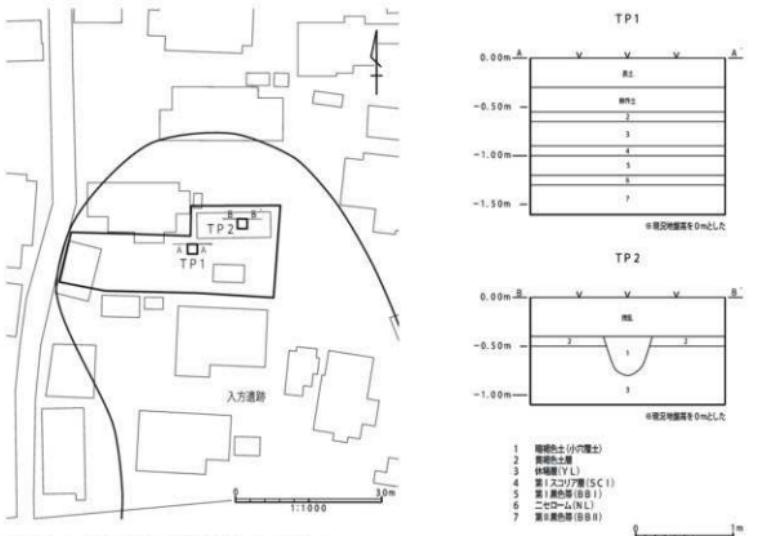
調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑(TP)を2か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

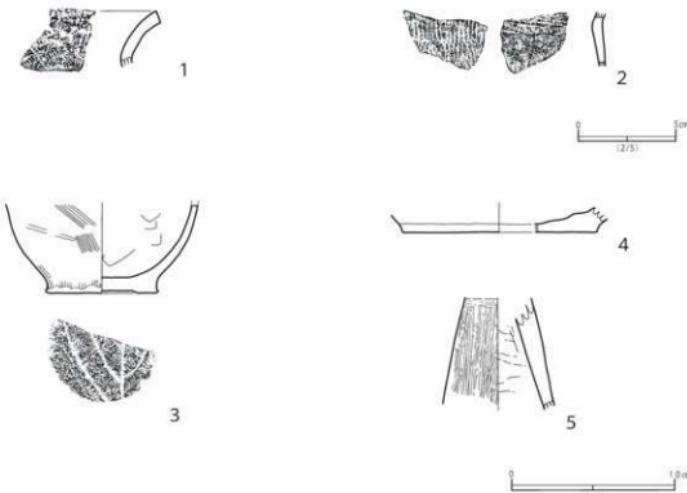
TP1の土層堆積状況は、地表から-0.55mまで表土及び耕作土、-0.55mから-0.65mまで黄褐色土層、-0.65mから休場層が堆積しており、以下標準的な愛鷹上部ローム層の堆積を確認した。第2層(黄褐色土層)からは弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。

TP2の土層堆積状況は、地表から-0.4mまで建物の基礎による攪乱、-0.4mから-0.5mまで黄褐色土層、-0.5mから-1.1mまで休場層となっていた。第2層(黄褐色土層)上面から小穴を1基確認した。遺物は確認されなかったが、少なくともTP1で出土した遺物の時期以降であると思われる。このことから、本来の遺物包含層や遺構検出面は大きく攪乱を受けているものと判断される。休場層以下は標準的な愛鷹上部ローム層の堆積となっており、遺構・遺物は確認されなかった。



第22図 入方遺跡試掘坑配置図・柱状図

出土した遺物については、TP1 から出土した遺物 5 点を第 23 図に図示した。1・2 は弥生土器、3～5 は土師器である。1 は大きく外反する甕の口縁部の破片で、端部は平坦に整えている。外面にハケ状工具による斜条痕、内面に細目のハケ調整を施す。2 は甕の胴部の破片である。やや内湾しながら立ち上がり、口縁部にかけて外反する器形を呈する。外面に斜条痕を施す。3 は胴部下部から底部にかけての壺の一部である。底部は突出し、胴部は内湾しながら立ち上がる。4 は甕の底部である。内外面ともに摩耗が著しい。5 は高环の脚部である。直線的に開き、外面は縦位のヘラミガキを施し、接続部にはわずかに横位のヘラミガキが認められる。内面はヘラミ工具によって調整している。



第 23 図 入方遺跡出土遺物実測図

第 4 表 入方遺跡出土遺物観察表

回収 番号	遺物 番号	出土 地點	種類	基準 寸法	口径 基準 度量	胎土	構成	色調	既存	新規の特徴	手法の特徴	備考	
23 図 1	—	TP1	弥生 土器	僅	—	—	φ 1mm の白色砂粒 25% 含む	黄	に近い褐色 (3YR6/4)	口縁部 口縁部は外反する	外面 ハケ状工具による斜条痕 内面 ハケ状工具による様仕事痕	弥生後期	
23 図 2	—	TP1	弥生 土器	僅	—	—	φ 1mm の白色砂粒 25% 含む	黄	明眞褐色 (3YR6/6)	胴部	片茎 斜条痕 内湾した器形を呈し口縁にかけて わずかに外傾しながら立ち上がる	弥生後期	
23 図 3	—	TP1	土師器	僅	0.4cm 15.0cm	φ 1mm の黑色砂粒 5% 含む	—	褐色 (3YR7/6)	胴部下部一帯 基部は突出し胴部は内湾しながら 立ち上る	内面に木葉痕	内面 ハケ後、ナデ調整 内面 ヘラ工具で調整	古墳時代初期	
23 図 4	—	TP1	土師器	僅	—	—	φ 1mm の黑色砂粒 5% 含む	やや 黄	に近い黄褐色 (10YR2/4)	底部	底面はわずかに突出する	内外磨耗が著しい	古墳時代初期
23 図 5	—	TP1	土師器	高環	0.5cm	—	φ 1mm の黑色砂粒 5% 含む	黄	赤褐色 (3YR4/6)	底部 底面は直線的に開く	外面 ヘラミガキ 内面 ハケ状工具で調整	古墳時代初期	

(5) 三芳町遺跡

所在地

沼津市三芳町 200-10 の一部

調査面積

4 m²

調査期間

令和2年9月23日

調査原因

車庫・倉庫の建設

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑（TP）を1か所設定し、重機によって掘削した。

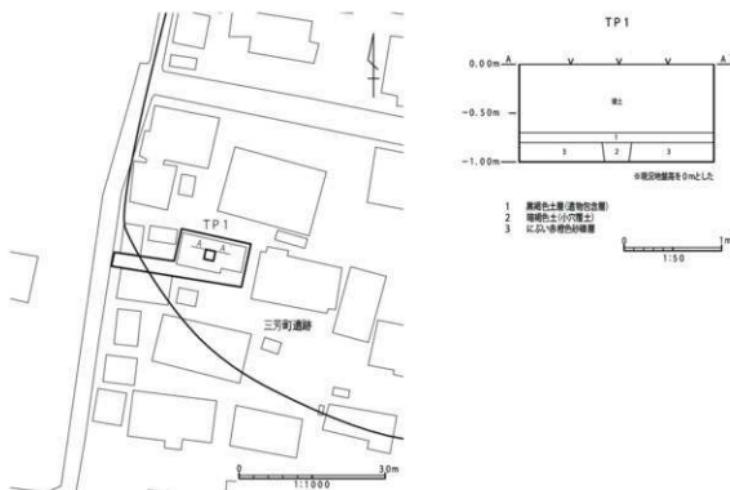
調査の結果

TP 1 の土層堆積状況は、地表から -0.7 m まで埋土となっており、-0.7 m から -0.8 m まで黒褐色土層、-0.8 m から -1.0 m までにぶい赤橙色砂礫層となっていた。第3層（にぶい赤橙色砂礫層）上面を検出面として小穴を1基確認した。年代については、覆土から出土した遺物から古墳時代以降であると推測される。

出土した遺物は小片であったため、写真掲載にとどめた（PL.10）。



第24図 三芳町遺跡調査箇所位置図



第25図 三芳町遺跡試掘坑配置図・柱状図

(6) 山王台遺跡

所在地

沼津市大岡字馬場町 1658-2 外

調査面積

8 m²

調査期間

令和2年 10月 7日

調査原因

個人住宅 4 棟の新築

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑 (TP) を 2か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

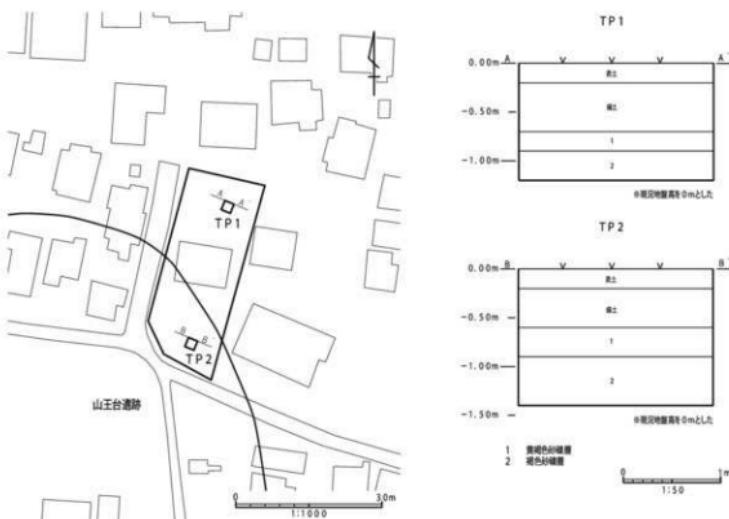
TP 1 の土層堆積状況は、地表から -0.7 mまで表土及び宅地造成時の盛土、-0.7 mから -0.9 mまで黄褐色砂礫層、-0.9 mから -1.2 mまで褐色砂礫層となっていた。

TP 2 の土層堆積状況は、地表から -0.6 mまで表土及び宅地造成時の盛土、-0.6 mから -0.9 mまで黄褐色砂礫層、-0.9 mから -1.4 mまで褐色砂礫層となっていた。

TP 1・2ともに遺構・遺物は確認されなかった。



第 26 図 山王台遺跡調査箇所位置図



第 27 図 山王台遺跡試掘坑配置図・柱状図

(7) 尾崎遺跡・後藤屋敷跡

所在地

沼津市西沢田字尾崎 558-3 外

調査面積

16m²

調査期間

令和2年 10月 15日

調査原因

個人住宅5棟の新築

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑（TP）を4か所設定し、重機によって掘削した。

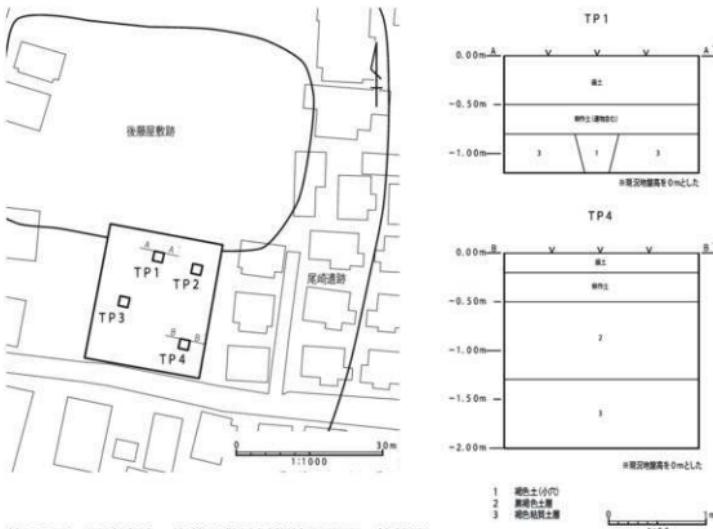
調査の結果

TP 1・4 の土層堆積を検討した結果、TP 1 の土層堆積状況は、地表から -0.5 mまで盛土、-0.5 mから -0.8 mまで耕作土、-0.8 mから -1.2 mまで褐色粘質土層となっていた。

また、土層断面観察から褐色粘質土層上面を掘り込む褐色土を確認した。そのため、地表下 -1.2 m地点を精査したところ、2基の小穴が認められた。耕作土中に遺物が含まれていることから、何らかの遺構があったものの、後世の擾乱により大半を失ってしまっているものと考えられる。TP 4 の土層堆積状況は、地表から -0.2 mまで盛土、-0.2 mから -0.5 mまで耕作土、-0.5 mから -1.3 mまで黒褐色土層、以下褐色粘質土層となっていた。

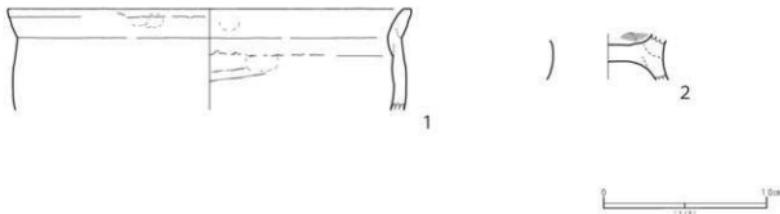


第28図 尾崎遺跡・後藤屋敷跡調査箇所位置図



第29図 尾崎遺跡・後藤屋敷跡試掘坑配置図・柱状図

出土した遺物については、TP 1より出土した土師器2点を第30図に図示した。1は甕の口縁部から胴部の一部で端部を折り返しわざかに肥厚させる。内外面ともにナデによる調整が施されており指頭痕が認められる。外面に煤が付着している。2は台付甕の脚部の一部で、脚はハの字状に開く。内面はハケ調整後にナデによる整形を施しているが、外面は摩耗が著しく判然としない。年代は古墳時代前期～中期頃と推測される。



第30図 尾崎遺跡・後藤屋敷跡出土遺物実測図

第5表 尾崎遺跡・後藤屋敷跡出土遺物観察表

図面 番号	遺物 番号	出土 地點	種類	基盤	口縁 最高 直径	胎土	焼成	色調	保存	形態の特徴	手法の特徴	備考
30図 1	—	TP1	土師器	偏	24.9cm (8.2cm)	φ 1mm の白色砂粒 25 合む	直	淡白色 (7.8Y7.2)	口縁部～器身	器縁は「C」の字に外傾し、 口縁部周辺を平坦に整える	片面 程度ナデ ユビオサエ 内面 ユビオサエ へらや工具による調整	古墳時代前期～中期 スス付着
30図 2	—	TP1	土師器	台付甕	— (2.8cm)	φ 1mm の白色砂粒 25 合む	良好	にじみ赤褐色 (5YR6.3)	脚部	「H」の字状に開く	外裏 ナデ 内面 ハケ調整後、様似ナデ	古墳時代前期～中期

(8) 東畠毛遺跡・松長古墳群

①東畠毛・松長古墳群その1

所在地

沼津市今沢字アラク 134-11

調査面積

4 m²

調査期間

令和2年9月18日

調査原因

携帯電話無線基地局の建設

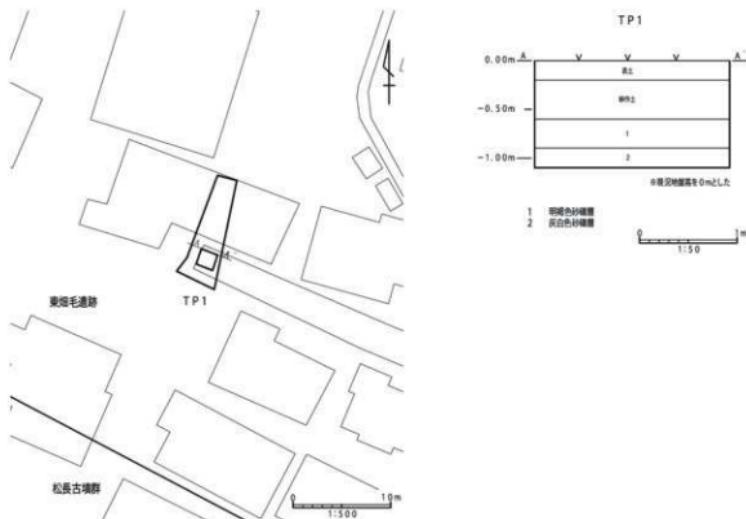
調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑(TP)を1か所 第31図 東畠毛遺跡・松長古墳群その1
設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

TP1の土層堆積状況は、地表から-0.6mまで表土及び耕作土、-0.6mから-0.9mまで明褐色砂礫層、以下灰白色砂礫層の堆積となっていた。

遺構・遺物は確認されなかった。



第32図 東畠毛遺跡・松長古墳群その1 試掘坑配置図・柱状図

②東畠毛遺跡・松長古墳群その2

所在地

沼津市今沢 248-5

調査面積

4 m²

調査期間

令和2年10月29日

調査原因

新築アパート建設

調査の概要

確認調査は、対象地に試掘坑(TP)を1か所設定し、重機によって掘削した。

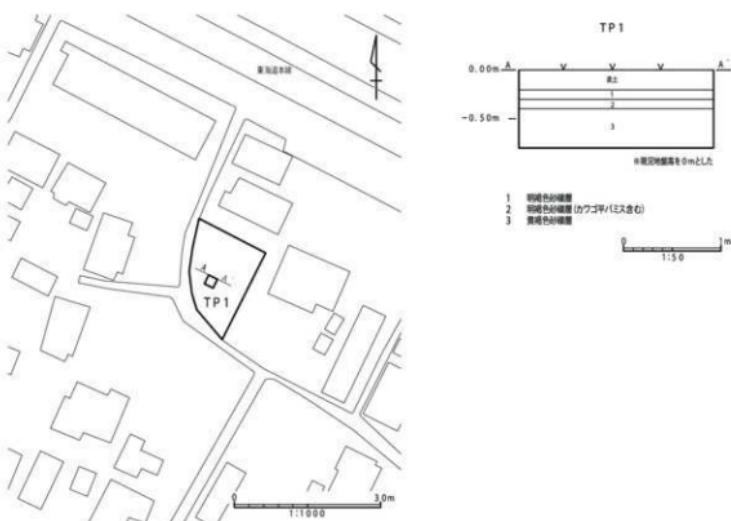
調査の結果

TP1の土層堆積状況は、地表から-0.2mまで表土、-0.2mから-0.3mまで明褐色砂礫層、-0.3mから-0.4mまでカワゴ平バミスを含む明褐色砂礫層、-0.4mから-0.8mまで黄褐色砂礫層の堆積となっていた。

遺構・遺物は確認されなかった。



第33図 東畠毛遺跡・松長古墳群その2
調査箇所位置図



第34図 東畠毛遺跡・松長古墳群その2 試掘坑配置図・柱状図

(9) 小諏訪地内

所在地

沼津市小諏訪 594-5 外

調査面積

12m²

調査期間

令和2年7月22日

調査原因

都市計画道路片浜西沢田線道路築造その2工

事

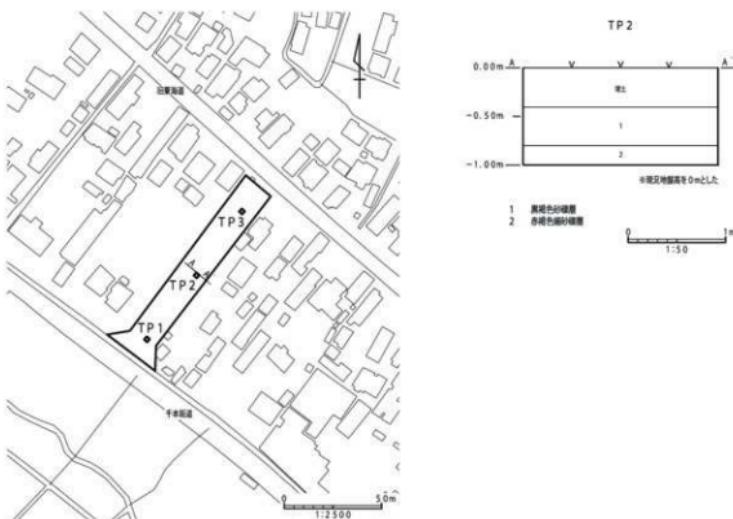
調査の概要

試掘調査は、対象地に試掘坑(TP)を3か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

TP2の上層堆積状況は、地表から-0.4mまで埋土、-0.4mから-0.8mまで黒褐色砂礫層、以下-1.0mまで赤褐色細砂礫層の堆積となっており、標準堆積として示した。

遺構・遺物は確認されなかった。



第36図 小諏訪地内試掘坑配置図・柱状図

(10) 大泉寺畠遺跡・山神上遺跡

所在地

沼津市岡宮 833-1 外

調査面積

約 32m² 試掘坑 8か所

調査期間

令和2年9月29日～令和3年2月18日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

調査の概要

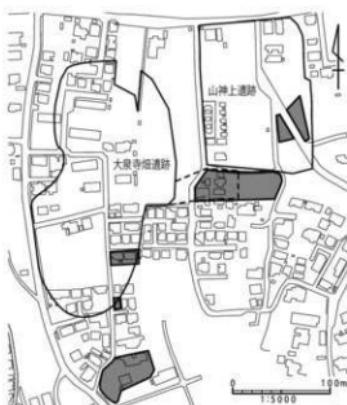
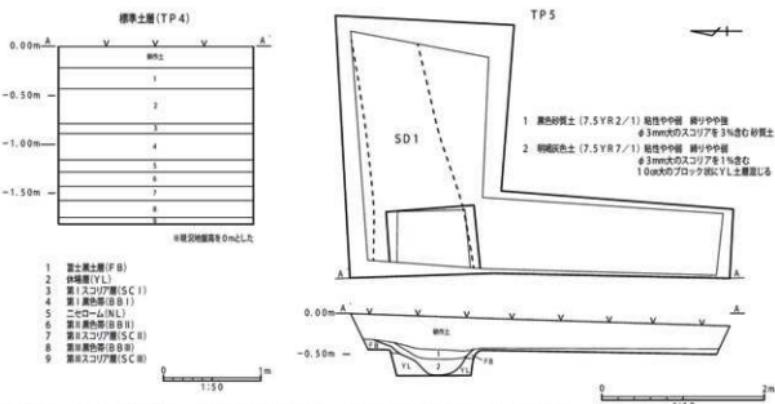
大泉寺畠遺跡及び山神上遺跡が含まれる地区では、岡宮北土地区画整理事業を実施しており、当該事業と並行して埋蔵文化財の試掘・確認調査、及び本発掘調査を継続して行っている。当該年度は既存建物の撤去が完了した土地に対し、試掘・確認調査を実施した。

調査の結果

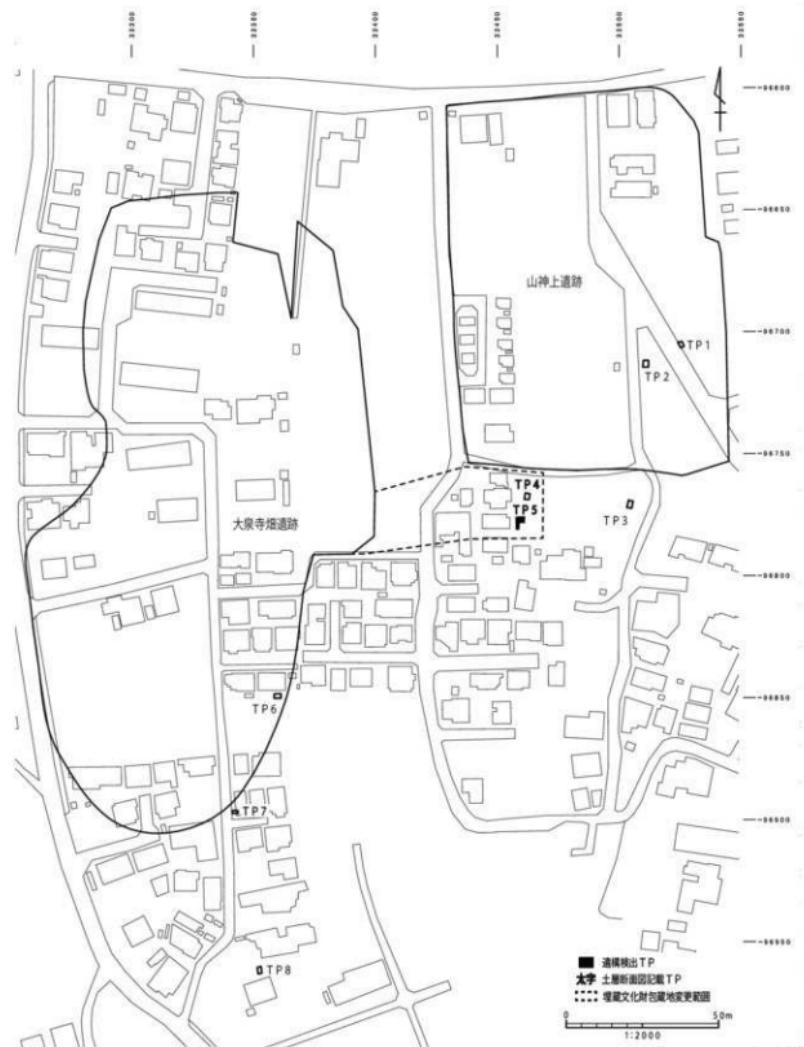
土層堆積は比較的堆積状況が良好な TP 4 を標準土層とした。TP 4 の土層堆積状況は、地表から -0.2m まで耕作土、-0.2m から -0.4m まで富士黒土層、以下休場層と続き、第Ⅲスコリア層 (SC III) が確認された現況下 -1.8m まで愛鷹山麓における標準的なローム堆積となっていた。

TP 1 ~ 4、6 ~ 8 からは遺構・遺物は確認されなかったが、TP 5 から溝状遺構 (SD) を 1 条検出した。

SD 1 の検出面は耕作による削平を受け確認することはできなかったが、休場層まで掘り込まれていてことを土層断面から確認した。幅は約 1.6m、深さは約 0.6m を測り、東西方向に延びる。時期については、遺物が出土しなかったため不明である。この溝状遺構は、過去に大泉寺畠遺跡で実施した本発掘調査で検出されたものに統く遺構と考えられることから、第 39 図の破線範囲を大泉寺畠遺跡として範囲変更した。

第 37 図 大泉寺畠遺跡・山神上遺跡
調査箇所位置図

第 38 図 大泉寺畠遺跡・山神上遺跡標準土層及び試掘坑 5 平面図・断面図



第39図 大泉寺塼遺跡・山神上遺跡試掘坑配置図

(11) 足高字尾上地内

所在地

沼津市足高字尾上 405-161 外

調査面積

16m²

調査期間

令和2年 10月 20日

調査原因

事業事務所及び工場の建設工事

調査の概要

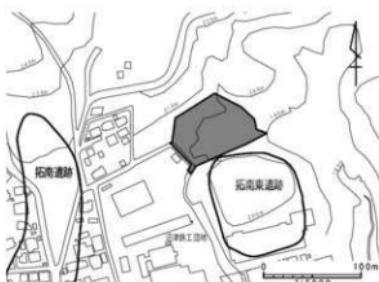
試掘調査は、対象地に試掘坑（TP）を4か所設定し、重機によって掘削した。

調査の結果

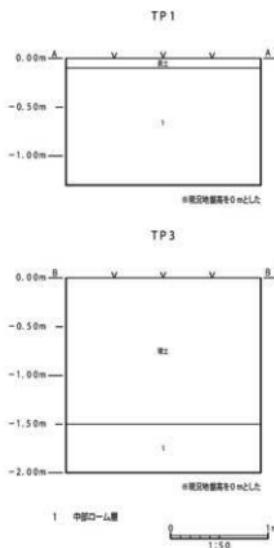
試掘坑4か所の内、北側のTP1と南側のTP3の土層堆積を比較・検討した。

TP1は、表土より下は愛鷹山麓における中部ローム層が堆積している状況であった。TP3については、地表から-1.5mまで埋土で、以下中部ローム層の堆積となっていた。このことから当該地は、既に後世の削平を受けているものと考えられる。

すべてのTPから遺構・遺物は確認されなかった。



第40図 足高字尾上地内調査箇所位置図



第41図 足高字尾上地内試掘坑配置図・柱状図

(12) 原新田地内

所在地

沼津市原新田地内

調査面積

18m²

調査期間

令和3年1月29日

調査原因

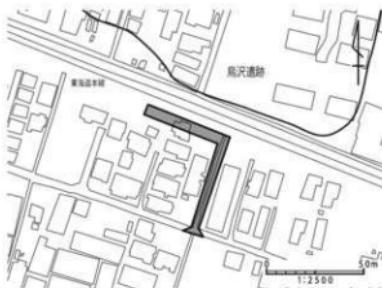
市道2693号線道路築造工事

調査の概要

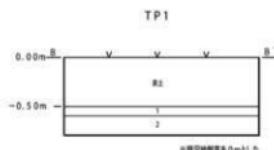
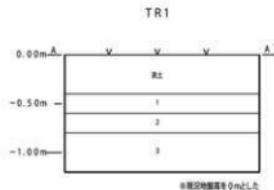
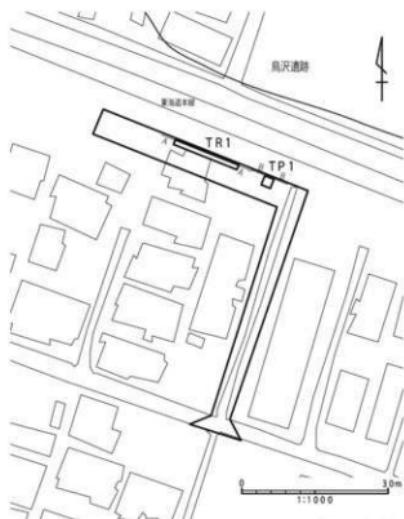
試掘調査は、対象地に試掘溝（TR）を1か所と試掘坑（TP）を1か所設定し、重機により掘削した。

調査の結果

TR1の上層堆積状況は、地表から-0.4mまで表土、-0.4mから-0.6mまで褐色スコリア層、-0.6mから-1.2mまでは千本砂礫洲を形成する黄褐色砂礫層及び黄色砂礫層の堆積となっていた。
 TP1の堆積状況は、地表から-0.5mまで表土、TR1と同様の堆積状況であった。
 TR1、TP1ともに遺構・遺物は確認されなかった。



第42図 原新田地内調査箇所位置図



- 1 褐色スコリア層
- 2 黄褐色砂礫層
- 3 黄色砂礫層

0 1:50 m

第43図 原新田地内試掘溝・試掘坑配置図・柱状図

(13) 御幸町地内

所在地

沼津市御幸町 92 の一部

調査面積

41m²

調査期間

令和3年2月24日～令和3年2月26日

調査原因

新総合体育館建設

調査の概要

試掘調査は、御幸町遺跡の西側に隣接する箇所に試掘溝（TR）を設定して調査した。重機による表土除去後、人力による掘り下げを行った。

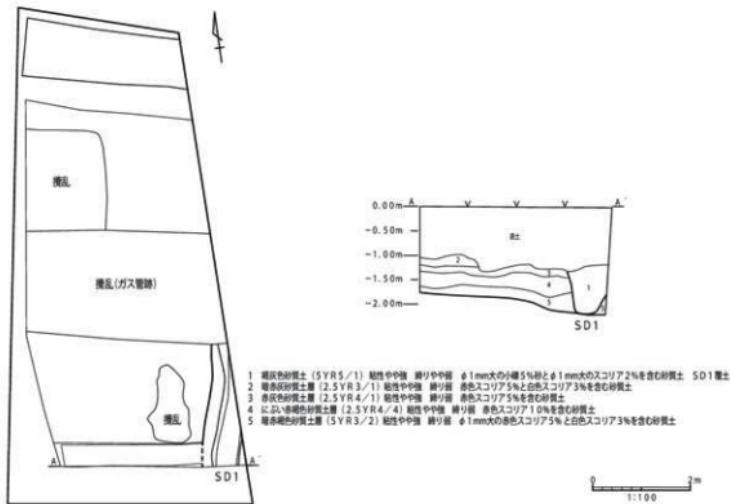
調査の結果

TR1 の土層堆積状況は、地表から -1.0m まで表土、-1.0m から -1.7m まで赤色スコリアを含む砂質土層を 4 層確認した。遺構は、調査区南東隅から溝状遺構（SD）を 1 条検出した。

SD1 は、表土直下、第3層（赤灰色砂質土層）上面で確認できたが、遺構の堀込面は既に削平されているものと考えられる。調査区南東隅から南北方向へ延びるが、攪乱の影響を受けていることから、全容を把握するのは難しい。幅は約 0.9m、深さ約 0.86m を測る。過去の調査で弥生時代中期以降、古墳時代、近代に帰属する溝状遺構が報告されているが、今回確認された SD の時期については、遺物が伴わなかったため不明である。



第 44 図 御幸町地内調査箇所位置図



第 45 図 御幸町地内試掘溝平面図・断面図

写 真 図 版



日吉廃寺跡
調査箇所（北より）



日吉廃寺跡 本発掘調査
作業状況

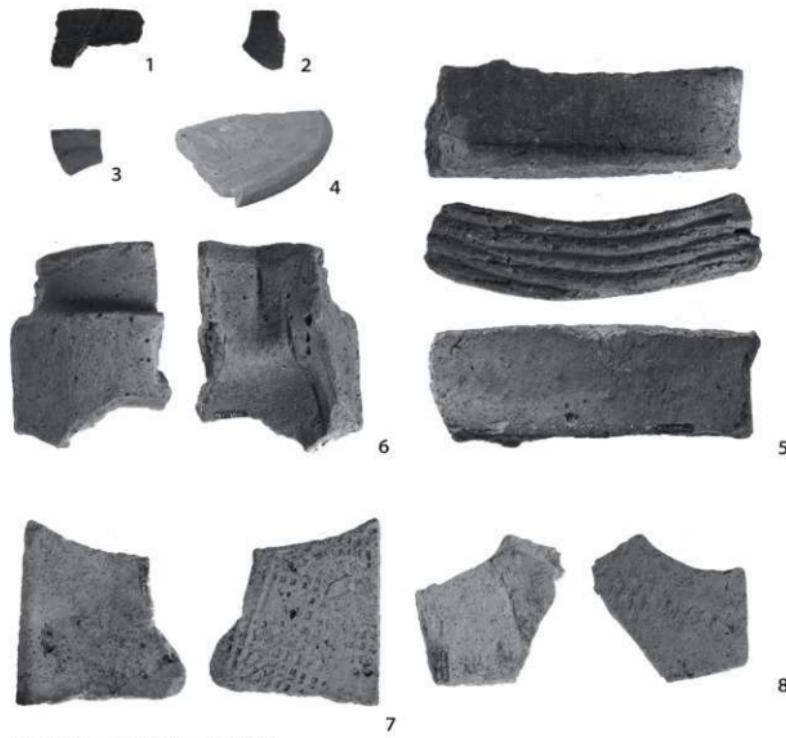


日吉廃寺跡 本発掘調査
調査区土層断面（東より）

P.L. 2



日吉麻寺跡 本発掘調査
遺物出土状況



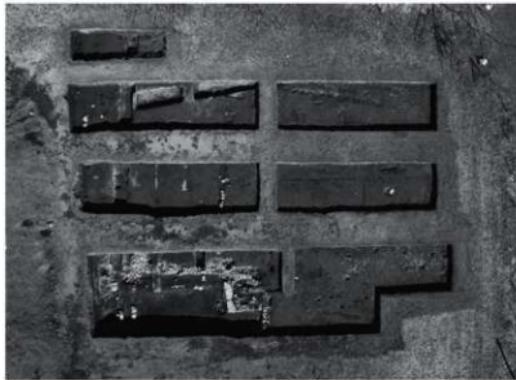
日吉麻寺跡 本発掘調査 出土遺物



興國寺城跡 第1地点
調査区全景



興國寺城跡 第1地点 試掘溝1
石垣検出状況（南東より）



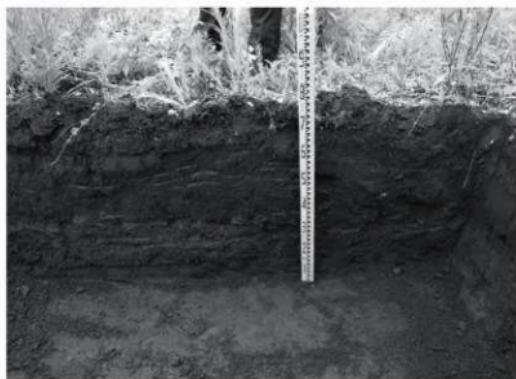
興國寺城跡 第2地点
調査区全景



石田古墳群
調査箇所（北西より）



石田古墳群
試掘坑重機掘削



石田古墳群
試掘坑土層断面（南より）



日吉廐寺跡 確認調査
試掘溝完掘（北より）



日吉廐寺跡 確認調査
試掘溝完掘（南東より）



日吉廐寺跡 確認調査
試掘溝土層断面（南東より）

P.L. 6



日吉廬寺跡 確認調査
遺物出土状況



1



2



3



4



日吉廬寺跡 確認調査 出土遺物



大廟遺跡・柳沢古墳群
調査箇所（南より）



大廟遺跡・柳沢古墳群
試掘坑1重機掘削



大廟遺跡・柳沢古墳群
試掘坑1土層断面（南より）



入方遺跡
調査箇所（西より）



入方遺跡
試掘坑1 重機掘削



入方遺跡
試掘坑1 土層断面（西より）



入方遺跡
試掘坑 2 土層断面（西より）



入方遺跡
試掘坑 1 遺物出土状況



入方遺跡
出土遺物

P.L. 10



三芳町遺跡
試掘坑重機掘削



三芳町遺跡
試掘坑土層断面（南より）



三芳町遺跡
出土遺物



山王台遺跡
調査箇所（西より）



山王台遺跡
試掘坑1重機掘削



山王台遺跡
試掘坑1土層断面（南西より）

P.L. 12



尾崎遺跡・後藤屋敷跡
試掘坑1重機掘削



尾崎遺跡・後藤屋敷跡
試掘坑1土層断面（南西より）



1



2

尾崎遺跡・後藤屋敷跡
出土遺物



東畠毛遺跡・松長古墳群その1
調査箇所（南西より）



東畠毛遺跡・松長古墳群その1
試掘坑重機掘削



東畠毛遺跡・松長古墳群その1
試掘坑土層断面（南西より）



東煙毛遺跡・松長古墳群その2
調査箇所（東より）



東煙毛遺跡・松長古墳群その2
試掘坑重機掘削



東煙毛遺跡・松長古墳群その2
試掘坑土層断面（南西より）



小諏訪地内
調査箇所（南西より）



小諏訪地内
試掘坑 2重機掘削



小諏訪地内
試掘坑 2土層断面（西より）



大泉寺畠遺跡・山神上遺跡
試掘坑1重機掘削



大泉寺畠遺跡・山神上遺跡
試掘坑4土層断面（東より）



大泉寺畠遺跡・山神上遺跡
試掘坑5土層断面（東より）



足高字尾上地内
調査箇所（北東より）



足高字尾上地内
試掘坑3重機振削



足高字尾上地内
試掘坑3土層断面（南より）

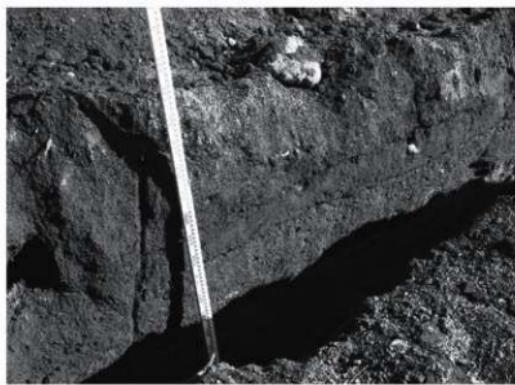
P.L. 18



原新田地内
調査箇所（南東より）



原新田地内
試掘溝重機掘削



原新田地内
試掘溝土層断面（南西より）



御幸町地内
調査箇所（北より）



御幸町地内
試掘溝重機掘削



御幸町地内
試掘溝完掘（東より）

報告書抄録

ふりがな	ぬまづしないいせきはくつちょうさほうこくしょ 5
書名	沼津市内遺跡発掘調査報告書 5
副書名	
巻次	
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 125 集
編著者名	小林晃太郎・鈴木史子
編集機関	沼津市教育委員会
所在地	〒 410-8601 静岡県沼津市御幸町 16 番 1 号 TEL055-931-2500 国
市町村コード	22203
発行年月日	西暦 2023 年 1 月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード		世界測地系		発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
日吉廃寺跡	沼津市富士見町 1856-28 の一部外	22203	176	35° 06' 22"	138° 52' 13"	20200721	22m ²	個人住宅の新築工事に伴う 確認調査
						20200917	3m ²	個人住宅の新築工事に伴う 本発掘調査
興國寺城跡	沼津市相模原字赤池 392-1 の一部外	22203	35	35° 08' 29"	138° 48' 25"	20201223 ~ 20210312	226.3m ²	史跡整備
石田古墳群	沼津市大同字上ノ田 2406-4	22203	420	35° 06' 48"	138° 53' 00"	20200720	4m ²	一戸建て住宅の新築に伴う 確認調査
大庭遺跡・ 柳沢古墳群	沼津市柳沢字大沢 401-5 外	22203	54+418	35° 08' 34"	138° 49' 20"	20200902	12m ²	離れの新築に伴う確認調査
入方遺跡	沼津市東沢田 256-1 外	22203	123	35° 07' 21"	138° 51' 29"	20200918	8m ²	一戸建て住宅の新築に伴う 確認調査
三芳町遺跡	沼津市三芳町 200-10 の内	22203	181	35° 06' 10"	138° 51' 56"	20200923	4m ²	車庫・倉庫の建設に伴う確認調査
山上台遺跡	沼津市大同字馬場町 1658-2 外	22203	174	35° 06' 06"	138° 52' 10"	20201007	8m ²	個人住宅 4 棟の新築に伴う 確認調査
尾崎遺跡・ 後藤屋敷跡	沼津市西沢田字尾崎 588-3 外	22203	80+286	35° 07' 16"	138° 50' 53"	20201015	16m ²	個人住宅 5 棟の新築に伴う 確認調査
東側毛道跡・ 松長古墳群	沼津市今井字アラク 134-11	22203	358+ 195	35° 06' 58"	138° 49' 02"	20200918	4m ²	携帯電話無線基地局の建設に伴う 確認調査
	沼津市今井字アラク 248-5			35° 07' 05"	138° 49' 06"	20201029	4m ²	新築アパート建設に伴う確認調査
—	沼津市小瀬町 594-5 外	22203	—	35° 06' 21"	138° 50' 11"	20200722	12m ²	都市計画道路片浜西沢田線道路 築造その 2 工事に伴う試掘調査
—	沼津市岡宮 833-1 外	22203	—	35° 07' 37"	138° 52' 00"	20200929 ~ 20210218	約 32m ²	岡宮北土地区画整理事業に伴う 試掘調査

沼津市文化財調査報告書 第125集
沼津市内遺跡発掘調査報告書 5

令和5年1月13日 印刷
令和5年1月31日 発行

編 集／沼津市教育委員会
発 行／沼津市教育委員会
沼津市御幸町16番1号
TEL (055) 931-2500㈹
印 刷／みどり美術印刷株式会社